



羊ヶ丘養護園安全委員会だより



羊ヶ丘養護園 VOL.41 令和2年6月19日 発行者 松本

第51回安全委員会が6月12日に開催されました。

コロナの影響により延期となっていた今年度1回目の定例安全委員会が先日開かれました。今回は、令和2年3月15日から令和2年6月1日までに起きた8件のケースの報告と審議がなされ、嚴重注意1名、安全委員会からの事情の確認と助言を受けた者が1名おりました。全体的にコミュニケーションの幼さ、未熟さから発生するトラブルや暴力が年齢を問わず多く見られており、改めて「例え相手が悪くても叩かない」を実践する意味においても、正しく対話をする事で相互理解に繋げていく力を身に付けることの重要性が確認できる会議となりました。

未来を見据えて・・・

4/25の児童や職員への暴力事件以降、数々の生活上の課題も重なり二転三転したSさんに対する支援方針でしたが、児童相談所への通所や指導もあり、将来への道筋が見えてきました。しかし、Sさんのこの先の生活を考えた時、社会のルールや厳しさを十分に理解してもらう事と、暴力を容認しないという姿勢を示し、子ども達の安心安全な生活を守っていく上でも嚴重注意は必要であるという結論に至り、実施する事となりました。嚴重注意の場ではSさんは時折涙を浮かべては委員の先生方の話に耳を傾け、被害を受けた職員、児童への想いを口にしておりました。今回の嚴重注意が今後Sさんを含む子どもたちの未来を守るものと成り得ればと思います。

T君への助言

ユニット内でも最年長であるT君の振るう暴力は、他児への影響力も大きく、繰り返されていること、また、前回呼び出しに応じなかった経過もある事から、T君より事情を聴き、助言をする事を目的として、安全委員会に来てもらうこととなりました。T君は同じユニットの小中学生の態度が悪いことで不快な想いをしたり、我慢をしている事が暴力を振るう理由であるとしていましたが、自身のその場での態度もすこぶる悪く、不適切であることを指摘されても理解をする事が難しい様子でした。しかし、委員の先生方からは我慢したり暴力を振るうのではなく、相手と話をする事で価値観の溝を埋められるように取り組んで欲しいと伝えられ、頷く様子も見られました。

私たちの現状と課題

3月からのコロナ休校によって、急な生活スタイルの変更を余儀なくされ、日常生活におけるストレスの影響も無視できないものとなりましたが、暴力自体は8ケースに留める事が出来たことは安全委員会に於いても一定の評価を受けていました。

しかし、起きた暴力の多くが、比較的年齢の高い児童が加害者である事からも分かるように、重篤な暴力が起きるリスクが高まっていると見ることも出来ると思います。また、年長児童の存在が集団に与える影響力や暴力の潜在化を考えると、ここでしっかりと歯止めを掛けられるかが勝負のカギを握っているのではないのでしょうか。

暴力の質や主体が変化してきており子どもたちの安心安全が単純に報告件数だけでは図ることが出来ないことを念頭に置きつつ今後も安全委員会活動に取り組む必要があります。

今年度の全国児童福祉安全委員会連絡協議会第12回全国大会(島根大会)及び東日本研修会はコロナの影響により中止となりました。

安全委員会発足当初から生活している高校生の2名が安全委員会に呼ばれたことは、当園の安全委員会の取り組み方を根本から見つめなおさなくてはいけないぐらいの出来事であったと思います。安心と安全を守っていく為にも、職員も子どもも一丸となって直面している課題に立ち向かうことが求められていると感じました。

児童指導員 松本 拓己